

父子2代。 DOS版からS/Fを使い続けて30年。 REAL4は今やなくてはならないシステムに!!

長国鉄工所は、ドッドウエルB・M・S名古屋支店で初めてS/Fシステムを導入してくださったお客様です。それはデータロジック設立の昭和62(1987)年のこと。以来30年、S/Fシステムを使い続けてくださっています。導入当時の話、REAL4の導入効果についてドッドウエル名古屋支店の加藤支店長と共に話をうかがいました。

30年前の昭和62(1987)年、鉄骨原図・見積積算・最適取合システムを導入していただきました。御社は加藤支店長のS/F第一号のお客様だったそうです。

社長：そうだったんですか。当時導入したのは先代の社長、私の父。亡くなって今年で4年目になります。新しいものを積極的に取り入れる、先見の明がある人でしたね。工場設備にも積極的に、大きな工場ではないですが、これだけ揃っているのは珍しいのではと思います。

加藤支店長：最初に導入していただいた型板原図システムS/Fジュニアはガセットをとるだけのシステムでしたが、先代は「面白いね」と関心をもってくださり、実際によく使ってくださいました。

その後、Windows版、REAL4と変わりながらも、ずっとS/Fシステムを使い続けてくださっていますね。

社長：他社も営業に来られたようですが、父は「興味ない」と。帳票一つにしても、慣れているものの方が見やすいということもあったのかもしれません。

社長ご自身の入社は？

社長：日本溶接構造専門を卒業した平成7(1995)年です。



長谷川勝義社長



長国鉄工所のHPより

入社後は現場で仕事を覚え、入社10年ぐらいしてから見積もりをやるようになり、汎用CADで図面を書き始めました。REAL4の導入は平成24(2012)年。やはりいち早い時期の導入でした。

社長：リアルタイム3Dへの関心が大きかったんだろうと思います。景気が良くない時期だったから、父は早く入れて、少しでも作業日数を短縮して楽になればと考えたんだと思います。REAL4はライナーに比べて細かな部品まで入るようになったのが魅力ですね。今では導入している会社が増えたので、当社が入れた見積もり段階の部材データを、REAL4を導入している協力ファブで使ってもらい、少しでも早く仕事を進めることに役立っています。

加藤支店長：30年前は自動CADを使っているファブさん自体が少なかったんですが、今では自動CADを導入している会社の中でS/Fはトップシェア。30年前とは雲泥の差です。社長：10年ぐらい前でも汎用CADを使っている会社の方がまだ多かったですね。専用CADを使えば早さが全然違う。書き間違いもない。今、小さな物件でもREAL4を使います。



物件3D

御社では、どなたがどう使われているのですか。

社長：私が使うよりも主に設計の2人が施工図・加工図などに使っています。1人は以前から原寸をやってきた人です。私は父が亡くなってから見積もりで使い始めました。決まればすぐに施工図データとして使えるぐらいまで入力しています。

REAL4導入後、専用と汎用の割合は変わりましたか。

社長：汎用を使うことはかなり減りました。

どんなところが便利ですか。

社長：やはりリアルタイム3Dです。絵的に見づらい部分を3Dですぐに確認できるのはとても便利です。また、お客さんにノートPCで3Dをお見せすると一目瞭然で変更を即理解していただけるので助かります。他にもスロープが簡単に入れられるようになったこと、補助線を利用した入力など、ライナーではできなかったこと、難しかったことが、REAL4では楽にできるようになったことが多いですね。

工区・分類分けの機能は？

社長：いいですね。細かく出せるようになったのがいい。「追加になった材料だけ見積もりを出してほしい」というときにも、そこだけ抜き出せるので助かります。以前は入力したものが全部一緒になってしまい、そうした出し方ができませんでした。REAL4は工区以外にも分類を幾つも指定するのが助かります。手で拾うことがなくなったので、搬出・搬入はだいぶ早くなりました。建物が大きくなればなるほど効果は大きいですね。リストが出てくるので「今日はこれだけ入ります」と、現場にも伝えやすくなりました。柱、大梁、小梁の色を変えたり、工区別に色を変えたり、色付きの3D出力も現場に渡しています。当然の話ですが、あれもこれもと材料を運んでしまうと現場が迷ってしまう。最初から工区で分



CADスタッフの一人。苦心作の一つです!

け、加工図に落とし込み、順番に出しています。

御社はどんな物件が多いのですか？

社長：今年は工場関係が多いですね。他に福祉施設、クリニック、テナントなど。意匠に凝ったものも少なくないですが、管理資料に反映させるため、2人はREAL4で可能な限り入れてくれています。30年前、ガセットしか書けなかったCADが、今では建物全部できてしまう。それ以前はガセット1枚、1枚、床で書いていた。それを思えば夢のようです。

加藤支店長：先代のように「面白いね」と言って使ってくださいました方がおられ、多くのお客様が使ってくださいました。その声バージョンアップにつながり、その積み重ねの上に業界トップシェアとなった今のREAL4がある。使ってくださいました皆様のおかげだと本当に思います。

社長：父も好きだったんだと思います。好きじゃないと使えませんから。REAL4は今や、なくてはならないツールです。

今後に向けて。

社長：若い人たちに、この仕事、面白いよ、と伝えていきたいですね。苦勞した物件が現場でピシッときれいに合ったときの達成感、言葉で言い表せません。当社は間もなく40周年。これからも一つひとつの仕事をしっかりとやって信頼を守り、地域のお役に立ちたいと思います。

有限会社 長国鉄工所



代表取締役 長谷川 勝義
〒491-0004 愛知県一宮市定水寺宇寺之越38番地
☎0586-76-4551
http://nagakuni.co.jp/
Mグレード/REAL4/2012年11月導入